

知の市場

—講座の概要—
(2011年度)

人間は多様なリスクに曝される中で技術革新や制度改革そして人材改新を通して社会変革を成し遂げながら生活してきた。しかし日本も世界も未だ多くの課題を抱えている。こうした中において自らを活かしていくために社会と世界の現況に対する理解を深めそして専門分野の展開の幅広い基盤を固めるべく、広範な教養を高めていくことが必須である。

社会の幅広い領域において諸々の機関が人々の多様な要請に応じて学習の機会を提供している。また、多彩な背景を持つ人々がそれぞれの立場で役割を担いつつ勉学に励んでいる。こうした力を糾合して新たな総合的かつ実践的な学習の機会を創成するべく「知の市場 (FMW : Free Market of・by・for Wisdom)」を構築した。

2004年度に「化学・生物総合管理の再教育講座」として開講して以来6年間にわたり、総合的かつ実践的な学習の機会を提供してきた。そして全国から大きな反響を得るとともに、70の開講機関や連携機関との協力関係を構築しつつ延べ2,330人の講師や延べ10,391人の応募者の人の輪を形成してきた。この成果を踏まえて2010年度は全国にさらに新たな展開を図り、529人の講師が参画して全国32の拠点で85科目(103科目相当)を開講し、前期のみで2,619人の応募者が参加した。

その中で「共催講座」は、「知の市場」の理念と基本方針に沿いつつ「知の市場」の運営体制を踏まえて、連携機関の協力のもと開講機関の主催により知の市場が共催して開講する。科目(120分授業15回2単位相当)を一つの単位とし開講し、大学・大学院に準拠した厳しい成績評価を行うことを原則とする。社会と世界の現況に対する理解を深めそして専門分野の幅広い展開の基盤を固めるために広範な領域で開講するが、時代の進展などに配慮しつつ適宜見直し進化する。

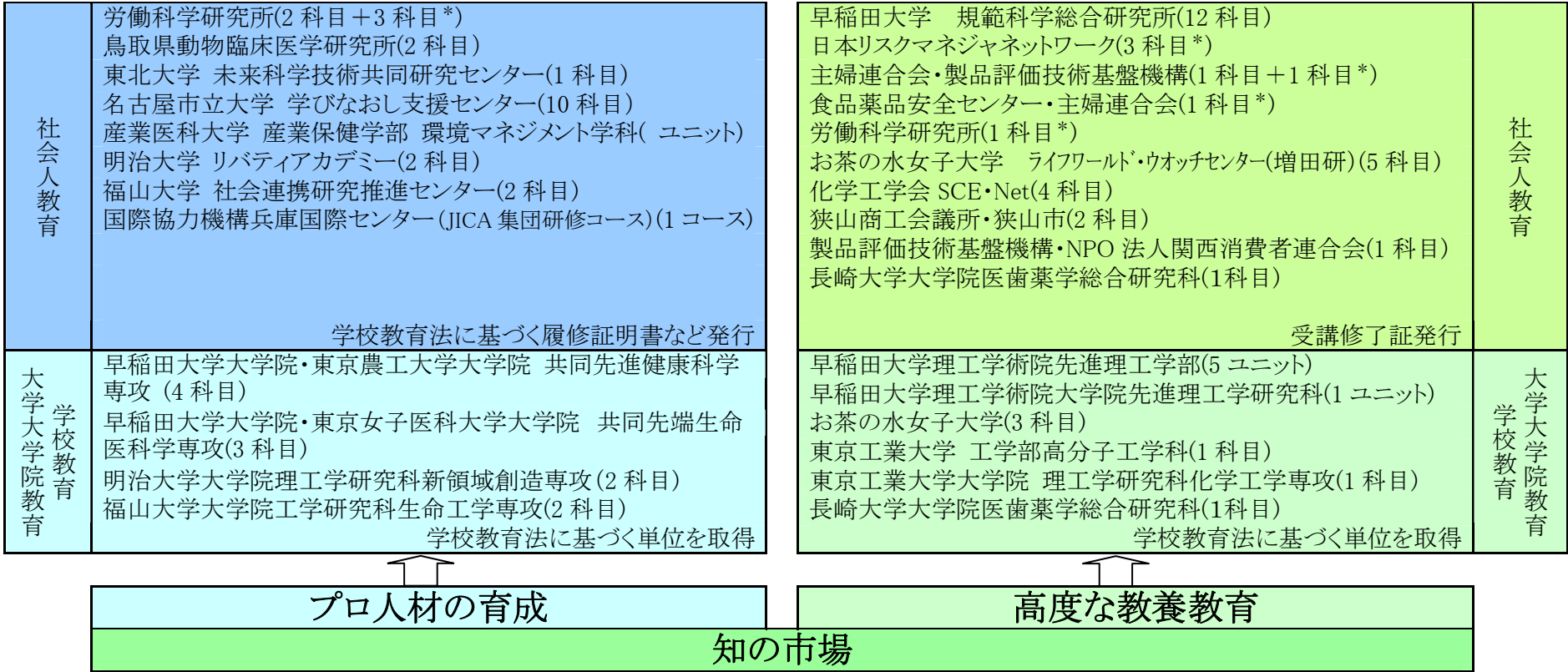
「関連講座」は、「化学・生物総合管理の再教育講座」や共催講座での経験を活かした活動、開講機関や連携機関が実施する活動、自己研鑽と自己実現に資する活動などであって知の市場の理念を共有する活動で、個々の主催者が自らの主体性と責任のもとで知の市場の基本方針を念頭に置きつつも取り巻く諸般の状況を踏まえて、講義時間と講義回数、成績評価と受講修了証などについて柔軟かつ弾力的に運営する。大学・大学院での履修科目に相当する120分授業15回の講座を科目、講義回数の少ない講座をユニット、科目を越えた長期間の講座をコースとして分類する。当面、教養編、専門編、研修編、大学・大学院編の4つの領域を設定する。

知の市場は、共催講座と関連講座の開講を通じて、自立的で解放的な協力関係を形成しながら人々が自己研鑽と自己実現のために立場を越えて自ら活動する場 (Voluntary Open Network Multiversity) である。そしてプロ人材の育成と高度な教養教育の接合及び社会人教育と学校教育の結合という二つの融合を促進する挑戦である。

2011年度は共催講座として14拠点で40の科目を、関連講座として16拠点で32科目、1コース(19科目相当)、18ユニットを、合計30の開講機関の主催により91科目(109科目相当)を開講する。このうち、2011年度の新規開講科目は合計21科目にのぼる。

知の市場の構造

— 講座の位置付け —



* 早稲田大学規範科学総合研究所との共催科目

共 催 講 座

2009年度は11の開講機関の主催により465名の講師陣の参画を得て合計59科目を開講し、2,297名の応募者があった。2010年度は、16の開講機関の主催により319名の講師陣の参画を得て合計37科目を開講し、1,143名の応募者があった。

2011年度は15の開講機関の主催により40科目を開講する。2010年度に引き続き早稲田大学規範科学総合研究所が12科目、日本リスクマネージャネットワークが3科目、主婦連合会と製品評価技術基盤機構が1科目、食品薬品安全センターと主婦連合会が1科目、労働科学研究所が4科目をそれぞれ早稲田大学規範科学総合研究所との共催で開講する。また、労働科学研究所が2科目、お茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター（増田研究室）が5科目、化学工学会SCE-Netが4科目、鳥取県動物臨床医学研究所が2科目、製品評価技術基盤機構と関西消費者連合会が1科目、東北大学未来科学技術共同研究センターが1科目を開講する。

また2011年度から、新規開講機関として狭山商工会議所と狭山市が2科目、主婦連合会と製品評価技術基盤機構が1科目、放射線医学総合研究所が1科目の合計4科目を新規科目として開講する他、既存の開講機関が10科目の新規科目を開講し、2011年度の新規開講科目は総計14科目にのぼる。

なお、関連講座として開講する産業医科大学産業保健学部環境マネジメント学科では、所定の1科目相当の修了者を共催講座修了者として認定（6科目）する。

1. 早稲田大学 規範科学総合研究所

詳細は<http://www.waseda.jp/prj-iirs/> を参照下さい。

(1) 開催場所

早稲田大学西早稲田キャンパス（東京メトロ西早稲田駅前）

(2) 概要

化学物質や生物の総合管理を中心に現代社会の理解に資する広範な分野の科目を開講する。2004年度から2008年度に開講した「化学・生物総合管理の再教育講座」の化学・生物総合管理Ⅰの一部を継承している。

2011年度は、前期に6科目、後期に6科目の合計12科目を開講する。化学物質のリスク評価に関する科目、農薬のベネフィットとリスクの総合管理に関する科目、過去・現在・未来における感染症と防御に関する2科目、科学と技術や社会と世界の広範な事柄について幅広く自由に論じる2科目、動物と人との病理を含めた関係に関する科目、アスベストとナノ材料のリスクの評価や管理を比較検証する科目及び環境に関する科学や政策に関する科目を継続して開講する。

また2011年度から新規科目として、化学物質の評価とGHS分類に関する科目、医薬品研究開発の戦略とプロセスに関する科目及び放射線の基礎とその影響と利用に関する科目を開講する。

動物との関係に関する科目及び環境政策に関する科目は、2009年度に東京工業大学社会人教育院で開講した科目を継承している。科学と技術や社会と世界の広範な事柄についての2科目は2010年度にお茶の水女子大学LWWC（増田研）で開講した科目を、アスベストとナノ材料についての科目は2010年度にナノテクノロジービジネス推進協議会が早稲田大学規範科学総合研究所と共催で開講した科目をそれぞれ継承している。

このほか、日本リスクマネージャネットワークと3科目、主婦連合会及び製品評価技術基盤機構と1科目、食品薬品安全センター及び主婦連合会と1科目、労働科学研究所と4科目の合計4機関と9科目を共催で開講する。

修了者に受講修了証を発行する。受講料は無料である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2004	2	51	28
2005	4	114	66
2006	5	128	73
2007	5	119	67
2008	5	150	77
2009	7	227	134
2010	7(前期4科目)	215	44(前期)
2011	12		
合計	47	1004	489

2008年度以前は継承した科目が他の開講機関で開講した数を含む。

(2010年12月2日現在)

2. 日本リスクマネージャネットワーク

早稲田大学 規範科学総合研究所

詳細は <http://www.jrmn.net/> を参照下さい。

(1) 開催場所

大阪府環境農林水産総合研究所 (JR 環状線・地下鉄中央線・鶴見緑地線 森ノ宮駅)

(2) 概要

2011年度は2010年度と同様、化学物質のライフサイクル全般にわたるリスクの評価や管理に関する科目、防疫薬の技術革新と社会的役割の紹介に関する科目、最新のトピックや身近な関心事を含めた環境問題の基礎に関する科目を、前期に1科目、後期に2科目の合計3科目を開講する。前2者の科目は、2009年度に東京工業大学社会人教育院及び早稲田大学規範科学総合研究所で開講した科目を継承している。

修了者に受講修了証を発行する。受講料は無料である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2009	2	43	30
2010	3(前期1科目)	39	9(前期)
2011	3		
合計	8	82	39

2009年度は継承した科目が他の開講機関で開講した数を含む。

(2010年12月2日現在)

3. 主婦連合会

製品評価技術基盤機構 (NITE)

早稲田大学 規範科学総合研究所

詳細は <http://www.shufuren.net/>、<http://www.nite.go.jp/> を参照下さい。

(1) 開催場所

早稲田大学西早稲田キャンパス (東京メトロ西早稲田駅前)

(2) 概要

2011年度は2010年度と同様、製品事故の現状と製品安全対策について、具体的事例に基づいて分析考察しながら今後の事故防止方策や政策のあり方について論ずる科目を開講する。主婦連合会と製品評価技術基盤機構と早稲田大学 規範科学総合研究所との共催で後期に東京で1科目を開講するほか、製品評価技術基盤機構と関西消費者連合会との共催で前期に大阪で同じ内容で1科目を開講する。

2009年度に、ほぼ同様の内容の科目を製品評価技術基盤機構と主婦連合会と関西消費者連合会との共催で東京と大阪で開講している。2005年度から2008年度に開講した「化

学・生物総合管理の再教育講座」の一部を継承している。

なお、主婦連合会と製品評価技術基盤機構はこのほか化学物質に関するリスク評価とリスク管理の基礎知識やナノ粒子のリスクなど具体的な事例、及びリスクコミュニケーションの重要性などについて解説する科目を主婦会館で前期に1科目を開講する。

修了者に受講修了証を発行する。受講料は無料である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2005	1	12	4
2006	3	96	56
2007	3	106	58
2008	4	141	84
2009	2	70	53
2010	1(後期)	82	
2011	1		
合計	15	507	255

2009年度以前は継承した科目が他の開講機関で開講した数を含む。

(2010年12月2日現在)

4. 食品薬品安全センター

主婦連合会

早稲田大学 規範科学総合研究所

詳細は <http://www.fdsc.or.jp/> を参照下さい。

(1) 開催場所

早稲田大学西早稲田キャンパス (東京メトロ西早稲田駅前)

(2) 概要

2011年度は2010年度と同様、食品の安全について、食品衛生検査の精度管理の実際、食品の安全性試験の基礎、機能性食品の安全性確保における問題点などに関する科目を後期に1科目を開講する。

2009年度にほぼ同様の科目を食品薬品安全センターの主催で開講している。

修了者に受講修了証を発行する。受講料は無料である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2009	1	47	26
2010	1(後期)	34	
2011	1		
合計	2	81	26

(2010年12月2日現在)

5. 労働科学研究所

早稲田大学 規範科学総合研究所

詳細は <http://www.isl.or.jp/expert/index.html> を参照下さい。

(1) 開催場所

早稲田大学西早稲田キャンパス (東京メトロ西早稲田駅前)

(2) 概要

2011年度は2010年度と同様、産業現場における安全・保健・環境に関する科目を開講する。基礎1科目を前期に、産業安全保健のプロ育成を目指す3科目を後期に開講する。2005年度から2009年度まで労働科学研究所が単独で開講した産業安全保健エキスパート養成コースを継承している。

産業保健の基礎として労働科学の歴史と展開を紹介する科目及び専門的な知識と専門技術を有し総合的なリスクアセスメントとそれに基づく対策を自立して行うことができる職場における産業安全保健のプロ人材(エキスパート)の育成を目指す3科目(安

全、健康、職場環境)を開講する。

産業安全保健のプロ育成科目の受講者は、上司の許可を得た業務としての参加を原則とするが、講義に十分参加できる素養を有する場合は個人的な受講も可能である。

修了者に受講修了証を発行する。受講料は無料である。

なお、労働科学研究所では、このほか事前に労働科学研究所が実施する「産業安全保健エキスパート認定試験二級」の合格者のみを対象とする実習を主とした上級科目として産業安全保健エキスパート養成コース(現場実習、有料)を単独で開講する。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2005	4	80	80
2006	8	156	152
2007	8	200	200
2008	8	196	196
2009	8	196	196
2010	4(前期1科目)	63	9(前期)
2011	4		
合計	44	891	833

2008年度以前は継承した科目が他の開講機関で開講した数を含む。

(2010年12月2日現在)

6. 労働科学研究所

詳細は<http://www.isl.or.jp/>を参照下さい。

(1) 開催場所

労働科学研究所(小田急線 向ヶ丘遊園駅又は横浜市営地下鉄あざみ野駅からバス)

(2) 概要

2011年度は2010年度と同様、産業現場における安全・保健・環境に関する専門的な知識と専門技術を有し、総合的なリスクアセスメントとそれに基づく対策を自立して行うことができる人材、かつ社会的責任(CSR)の視点からリスクを経営トップに進言できるプロ人材(産業安全保健エキスパート)への最終関門となる科目を開講する。2005年度から2009年度まで開講した産業安全保健エキスパート養成コースを継承している。

労働科学研究所が実施する「産業安全保健エキスパート認定試験二級」に合格した者のみを対象とし、受講者自らの所属組織における産業安全保健に関する現場の改善計画の策定やその実施、そして成果報告といった一連の過程を中心とする上級科目である。

また2011年度から新規科目として、労働科学研究所の上級科目の履修者の再教育のための科目を前期に1科目開講する。

修了者には受講修了証を発行する。労働科学研究所が資格認定試験を行う予定である。受講料は有料である。

なお、労働科学研究所では、このほか早稲田大学と共催で、産業保健の基礎に関する科目と安全、健康、職場環境に関する産業安全保健エキスパート養成コース3科目の計4科目を無料で開講する。「産業安全保健エキスパート認定試験二級」に合格するためには、この4科目を受講することが推奨されている。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2005	4	80	80
2006	8	156	152
2007	8	200	200
2008	8	196	196
2009	8	196	196
2010	1(後期)		
2011	2		

合計	39	828	824
----	----	-----	-----

(2010年12月2日現在)

7. お茶の水女子大学 ライフワールドウォッチセンター (増田研究室)

詳細は <http://www.chinoichiba.org/masuda.html>

<http://www.lwww.ocha.ac.jp/saikyouiku/> を参照下さい。

(1) 開催場所

お茶の水女子大学(東京メトロ茗荷谷駅、護国寺駅)

(2) 概要

科学と技術や社会と世界の理解に資する広範な分野の5科目を開講する。2004年度から2008年度に開講した「化学・生物総合管理の再教育講座」の創始者である。

2011年度は、2010年度から継続して石油をはじめとする日本とサウジアラビアの戦略的互惠関係を考える科目を開講するほか、2011年度から新規科目として特許情報の活用に関する科目、金融におけるリスクとリターンに関する科目、化学物質総合管理の国際協調と化学物質総合経営に関する科目及び知的財産権の意義・制度・戦略に関する科目を開講する。

お茶の水女子大学の学部学生の単位取得対象科目である。

修了者には受講修了証を発行する。受講料は無料である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2004	10	213	152
2005	36	844	510
2006	31	659	360
2007	24	647	305
2008	10	551	290
2009	4	164	91
2010	4(前期2科目)	136	45(前期)
2011	5(前期3科目)		
合計	124	3214	1753

(2010年12月2日現在)

8. 化学工学会 SCE・Net

詳細は <http://www.sce-net.jp/shakaijinkyoku.html> を参照下さい。

(1) 開催場所

お茶の水女子大学(東京メトロ茗荷谷駅、護国寺駅)

(2) 概要

2011年度は、2009年度から継続して化学工学技術者として自ら体験したことを踏まえながら、化学工業とその製品の社会との関係を論じる科目と環境に関する諸問題の解決と化学技術との係わりを論じる科目を開講するほか、2011年度から新規科目として技術開発における研究から事業化へ道のに関する科目及び機能化学品(パフォーマンス・ケミカルス)の機能・メカニズム・役割に関する科目を開講する。

2011年度は、前期に2科目、後期に2科目を開講する。2005年度から2008年度に「化学・生物総合管理の再教育講座」として開講してきた科目の一部を継承している。

修了者には受講修了証を発行する。受講料は1科目あたり5,000円である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2005	7	111	65
2006	7	90	51
2007	7	122	54
2008	3	106	45
2009	2	58	36

2010	2(後期)	54	
2011	4		
合計	32	541	251

2008年度以前は継承した科目が他の開講機関で開講した数を含む。
(2010年12月2日現在)

9. 鳥取県動物臨床医学研究所

詳細は <http://www.dourinken.com/> を参照下さい。

(1) 開催場所

鳥取県動物臨床医学研究所 (JR 倉吉駅)

(2) 概要

動物医療の中でも伴侶動物医療の近年の発展は目を見張るものがある。しかし、急速な発展の中にはひずみが発生しているのも事実である。医療は生き物的要素があり、急速な変化に対応不能な面もある。臨床獣医学のありようを再考し、原点であるひとつひとつの症例を大事に検証し、そのありようを検討する科目を開講する。2011年度は2010年度と同様、前期に1科目、後期に1科目の合計2科目を開講する。

受講対象者は獣医師、獣医系大学学生、動物看護師に限る。

修了者には受講修了証を発行する。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2010	2	146	48
2011	2		
合計	4	146	48

(2010年12月2日現在)

10. 狭山商工会議所

狭山市

詳細は <http://www.sayama-cci.or.jp/> を参照下さい。

(1) 開催場所

狭山市産業労働センター (西武新宿線狭山市駅)

(2) 概要

新規開講機関として2011年度から、狭山の地が育んできたものづくりの精神と技術や経営に関する科目と狭山市の中学生を対象とした経済・経営に関するキャリア教育の科目を前期に1科目、後期に1科目の合計2科目を開講する。

経済・経営に関するキャリア教育の科目の応募者は狭山市内の中学生に限る。

修了者には受講修了証を発行する。受講料は無料である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2011	2		
合計	2		

(2010年12月2日現在)

11. 製品評価技術基盤機構

NPO法人 関西消費者連合会

詳細は <http://www.nite.go.jp/> を参照下さい。

(1) 開催場所

八尾市立くらし学習館 (旧：婦人会館、近鉄八尾駅)

(2) 概要

2011年度は2010年度と同様、製品事故の現状と製品安全対策について、具体的事例

に基づいて分析考察しながら今後の事故防止方策や政策のあり方について論ずる科目を開講する。製品評価技術基盤機構と関西消費者連合会の共催で大阪で前期に1科目開講するほか、主婦連合会と製品評価技術基盤機構と早稲田大学規範化学総合研究所の共催で、後期に東京（早稲田大学西早稲田キャンパス）で同じ内容で1科目を開講する。

2009年度に、ほぼ同様の内容の科目を製品評価技術基盤機構と主婦連合会とNPO法人関西消費者連合会の共催で東京と大阪で開講している。2005年度から2008年度に開講した「化学・生物総合管理の再教育講座」の一部を継承している。

修了者には受講修了証を発行する。受講料は無料である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2005	1	12	4
2006	3	96	56
2007	3	106	58
2008	4	141	84
2009	2	70	53
2010	1	35	28
2011	1		
合計	15	460	283

2009年度以前は継承した科目が他の開講機関で開講した数を含む。

(2010年12月2日現在)

1.2. 主婦連合会

製品評価技術基盤機構（NITE）

詳細は <http://www.shufuren.net/>、<http://www.nite.go.jp/> を参照下さい。

(1) 開催場所

主婦会館（JR、東京メトロ四谷駅前）

(2) 概要

新規開講機関として2011年度から、化学物質に関するリスク評価とリスク管理の基礎知識やナノ粒子のリスクなど具体的な事例及びリスクコミュニケーションの重要性などについて解説する科目を、前期に1科目を開講する。

修了者には受講修了証を発行する。受講料は無料である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2011	1		
合計	1		

(2010年12月2日現在)

1.3. 東北大学未来科学技術共同研究センター

詳細は <http://www.niche.tohoku.ac.jp> を参照下さい。

(1) 開催場所

東北大学未来科学技術共同センター（青葉山キャンパス内、JR仙台駅からバス）

(2) 概要

2011年度は2010年度と同様、超臨界技術の基礎とナノ材料創製への展開及びそのリスク管理面の対策についての科目を前期に1科目開講する。

修了者には受講修了証を発行する。受講料は無料である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2010	1	57	
2011	1		
合計	2	57	

(2010年12月2日現在)

1 4. 放射線医学総合研究所

詳細は<http://www.nirs.go.jp/index.html> を参照下さい。

(1) 開催場所

稲毛サティ会議室 (JR 総武線 稲毛駅)

(2) 概要

新規開講機関として 2011 年度から、放射線医学研究の最前線そして放射線の光と影の両面に関して、放射線医学総合研究所が進めている先端研究を紹介しつつ未来の姿を展望する科目を後期に 1 科目開講する。

修了者には受講修了証を発行する。受講料は無料である

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2011	1		
合計	1		

(2010 年 12 月 2 日現在)

(1 5. 産業医科大学 産業保健学部 環境マネジメント学科)

詳細は<http://toppy.health.uoeh-u.ac.jp/ReEdu/index.html> を参照下さい。

(1) 開催場所

産業医科大学 (北九州市 JR 折尾駅からバス)

(2) 概要

関連講座として社会人教育プログラム「職場の安全衛生技術」を開講するが、所定のユニットの組合せによる 1 科目相当の修了者を共催講座の修了者として認定する。認定対象科目は 6 科目ある。

2006～2008 年度に「化学・生物総合管理の再教育講座」の化学・生物総合管理 U で開講した科目の一部を発展的に継承している。

科目の修了者に受講修了証を発行する。

開講内容の詳細については関連講座の II 専門編の 3. 産業医科大学 産業保健学部 環境マネジメント学科の概要参照 (p. 13)。

関 連 講 座

2009年度は、教養編3ユニットと1科目、専門編10ユニットと6科目、研修編1コースと2科目、大学・大学院編9ユニット、10科目、合計12の開講機関の主催により合計22ユニット、19科目、1コースを開講し、2027人が受講した。2010年度は、教養編3ユニット、専門編14科目、7ユニット、研修編1コース(19科目相当)、大学・大学院編8ユニット、早稲田大学15科目、合計16の開講機関の主催により合計18ユニット、29科目、1コース(19科目相当)を開講し、前期のみで2145人が受講した。

2011年度は、教養編として名古屋市立大学大学院の主催で3ユニット、専門編として名古屋市立大学 学びなおし支援センターの主催で10科目、産業医科大学 産業保健学部 環境マネジメント学科の主催で9ユニット、明治大学大学院と明治大学リバティアカデミーの共催で2科目、福山大学社会連携研究推進センターの主催で2科目、研修編として国際協力機構兵庫国際センターの主催で1コース(19科目相当)、大学・大学院編として早稲田大学が5ユニット、早稲田大学大学院が1ユニット、早稲田大学大学院・東京農工大学大学院 共同先進健康科学専攻が3科目、早稲田大学大学院・東京女子医科大学大学院 共同先端生命医科学専攻が2科目、明治大学大学院が2科目、お茶の水女子大学が3科目、福山大学大学院が2科目、東京工業大学が1科目及び東京工業大学大学院が1科目を継続して開講する。

また2011年度から新規科目として、専門編では長崎大学大学院医歯薬学総合研究科の主催で1科目、大学・大学院編では早稲田大学大学院・東京農工大学大学院 共同先進健康科学専攻が3科目、早稲田大学大学院・東京女子医科大学大学院 共同先端生命医科学専攻が2科目及び長崎大学大学院医歯薬学総合研究科が1科目、合計7科目を開講する。

その結果、合計16の開講機関の主催により18ユニット、32科目、1コース(19科目相当)、合計51科目(69科目相当)を開講する。

I. 教養編

1. 健康科学講座オープンカレッジ：名古屋市立大学大学院 医学研究科

詳細は <http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/w3med/philanthropy/opencollege.html> を参照下さい。

(1) 開催場所

名古屋市立大学 川澄キャンパス (名古屋市地下鉄桜山駅前)

(2) 概要

2011年度は2010年度と同様に市民の日々の生活を実りあるものにし将来の生活設計に資するために、名古屋市立大学医学部の基礎・臨床分野が蓄積している最新の研究情報を市民にわかりやすく解説し自己研鑽と再学習の場を提供することを目的に、2005年度から開講している。講師陣は名古屋市立大学医学研究科の教員を中心に、各ユニットのコーディネーターの下で学内他研究科の教員そして外部の研究者や実務家も参画している。受講者は大学生・大学院生も含めて医療・福祉関係や教育関係など幅広い社会人を対象としている。

90分授業8回からなるユニットを毎年開講している。平日夜間(18時30分～20時)に名古屋市内で開催する。

6回以上の出席者には修了証を発行する。受講料は1ユニットあたり8,000円である。

開催年度	ユニット数	受講者数	修了者数
2005	5	403	284
2006	6	497	390
2007	6	412	342
2008	6	371	256
2009	3	222	175
2010	3 (1 学期 1 科目)	178 (1、2 学期)	140 (1、2 学期)
2011	3		
合計	32	2083	1587

(2010 年 12 月 2 日現在)

II. 専門編

1. 名古屋市立大学 学びなおし支援センター

詳細は <http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/w3med/manabi/> を参照下さい。

(1) 開催場所

名古屋：名古屋市立大学 川澄キャンパス（名古屋市地下鉄桜山駅前）

(2) 概要

2011 年度は 2010 年度に引き続き医療保健分野の人材不足を補うため、職場復帰と高度医療に対応できる能力の向上を支援する自己研鑽プログラムで、専門分野に応じた柔軟な選択科目から構成している。

医療と保健分野の国家資格保有者を対象としたコース制（医療専門コース、医療技能コース、健康・保健コース）での受講とスポット科目での受講があり、スポット科目での受講は一部受講制限のある実習科目を除き一般の人も受講可能である。

3 学期制で、2010 年度は各学期 5 科目の合計 10 科目を開講する。2011 年度は前期後期各 3 科目の合計 6 科目を開講する。

2008 年度に開講した「化学・生物総合管理の再教育講座」の化学生物総合管理 U の一部を発展的に継承している。

受講修了した国家資格保有者については、受講修了証を発行するほか、履修証明試験の成績に応じて学校教育法に基づく履修証明書を授与するとともに就職支援もおこなう。一般の受講者については受講修了証を発行する。受講料は無料である。

なお、講座受講中は学内「さくら保育所」の一時託児サービス(無料)も利用できる。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2008	7 (6 科目は 12 月開講)	248	194
2009	18	1008	459
2010	10 (1 学期 5 科目)	990	171 (1 学期)
2011	10 (前期後期 5 科目)		
合計	45	2246	824

(2010 年 12 月 2 日現在)

2. 産業医科大学 産業保健学部 環境マネジメント学科

詳細は <http://toppy.health.uoeh-u.ac.jp/ReEdu/index.html> を参照下さい。

(1) 開催場所

産業医科大学（北九州市 JR 折尾駅からバス）

(2) 概要

2010年度は、産業保健学部環境マネジメント学科による社会人教育プログラム「職場の安全衛生技術」として、有害因子を取り扱う作業現場に存在するさまざまなリスクの評価及び管理の方法、人間工学の概念と人間工学的デザイン（設計）とその応用、リスクマネジメントなどに関して、2009年度に引き続き開講予定であった。2011年度の開講予定は未定である。

5回の授業からなるユニットを12ユニット（一部計画中を含む）開講する。その内容は、化学因子による生体影響の評価、化学物質の測定とその対策、職場の物理因子の測定と評価、職場の生物因子とその測定法、人間工学、職場の安全管理、リスクアセスメント実習、職場におけるリスクマネジメント、安全衛生に関する国際動向、労働安全衛生に関わる法規である。

2006～2008年度に「化学・生物総合管理の再教育講座」の化学・生物総合管理Uで開講した科目の一部を発展的に継承している。

ユニットの修了者にはユニットの修了証を発行する。

受講料は無料であるが、資料代を徴収する。

規定された3ユニットの組合せに従って受講すれば1科目を受講したものと認定される。規定されたユニットの組合せは6科目ある（さらに2科目を計画中）。

科目の修了者には修了証を発行する。（詳細は共催講座のページ参照）

開催年度	科目・ユニット数	受講者数	修了者数
2006	1	25	20
2007	3	102	64
2008	3	115	68
2009	6	26	22
2010	7	4	
2011	9		
合計	29	272	174

2008年度以前は継承した科目が他の開講機関で開講した数を含む。

(2010年12月2日現在)

2. 明治大学 大学院理工学研究科新領域創造専攻

明治大学 安全学研究所

明治大学 リバティアカデミー

詳細は <http://www.meiji.ac.jp/sst/grad/>

<http://academy.meiji.jp/ccs/index.html> を参照下さい。

(1) 開催場所

明治大学駿河台校舎リバティタワー（JR御茶ノ水駅）、または

明治大学秋葉原サテライトキャンパス（JR秋葉原駅前）

(2) 概要

2011年度は2010年度と同様、安全・安心な社会の実現のためには、工学的な視点のみならず人文・社会科学的な視点も含めた包括的、統一的、領域横断的な考察が必要である。暮らしの中の安全の検証と社会の中に安全を創るための方策について論じる科目、及び製品と機械の安全及びリスクアセスメントに関する科目を開講する。

120分授業16回からなる科目を前期に1科目、後期に1科目、計2科目開講する。この各科目は、2009年度以前のユニット（120分授業8回）の2ユニット相当を統合した。

修了者には修了証を発行する。受講料は1科目あたり10,000円である。

開催年度	科目・ユニット数	受講者数	修了者数
2005	2 ユニット	169	17*
2006	3 ユニット	308	186
2007	4 ユニット	100	84
2008	4 ユニット	119	90
2009	4 ユニット	326	199
2010	2 科目	143	69(前期)
2011	2 科目		
合計	21	1165	645

* : 1 科目は修了証発行せず
(2010 年 12 月 2 日現在)

4. 福山大学社会連携研究推進センター

詳細は <http://www.fukuyama-u.ac.jp/rcosr/index.html> を参照下さい。

(1) 開催場所

福山大学 宮地茂記念館 (JR 福山駅前)

(2) 概要

2011 年度は 2010 年度と同様、地域における社会人を対象に、地域の企業、行政、大学、試験・研究機関などとの連携により、化学・生物総合管理に基づく教育として、地域産業における化学・生物総合管理学の実際に関する科目、健康被害(生活習慣病)から身を守るためのリスク管理に関する科目を、通年で 2 科目を開講する。

各科目は、1) 講義、2) リスク管理技術の実験と実習、3) リスク管理マニュアルとその活用プランの作成、4) 受講者による公開発表の 4 部から構成する。

福山大学の大学院教育の一環であり、所定の手続きを経ることで大学院工学研究科博士前期課程の単位として認定される。

受講料は無料である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2008	4	75	64
2009	6	213	12
2010	2		
2011	2		
合計	14	288	76

(2010 年 12 月 2 日現在)

5. 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

詳細は <http://www.mdp.nagasaki-u.ac.jp/> を参照下さい。

(1) 開催場所

長崎大学医学部原爆後障害医療研究施設

(2) 概要

新規開講機関として 2011 年度から原爆被災という負の遺産から現代社会の科学の光と影を洞察し各時代における平和論と国際貢献について論じる科目を後期に 1 科目開講する。

修了者には受講修了証を発行する。受講料は無料である。

長崎大学東京事務所での遠隔地受講について検討中である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2011	1		
合計	1		

(2010 年 12 月 2 日現在)

Ⅲ. 研修編

1. 国際協力機構兵庫国際センター（JICA 集団研修コース） ：環境安全のための化学物質のリスク管理と残留分析

詳細は <http://www.jica.go.jp/hyogo/> を参照下さい。

(1) 開催場所

国際協力機構兵庫国際センター他、全国各地

(2) 概要

2011 年度は 2010 年度と同様、途上国の中堅の行政官、技官、研究者（定員 8 名）を対象に 6 ヶ月間、大学、専門機関、民間企業の参加によって講義、実習、見学などを実施し、化学物質のリスク評価と管理の基本原理と実務の理解、リスク管理技術としての分析技術の習得、学んだ知識や技術を自国で活かすための行動計画の策定などに関して研修する。2 月から 8 月にわたる研修であり、ほぼ 19 科目分に相当するコースである。

本研修コースは第 1 期は 1998 年度から 2002 年度、第 2 期は 2003 年度から 2007 年度に実施し、第 3 期は 2008 年度から 2010 年度の計画で実施している。

期	開催年	コース数	受講者数	修了者数
第 1 期	1997～2002	各年 1	40	40
第 2 期	2003～2007	各年 1	40	38
第 3 期	2008～2010	各年 1	23	16
	2011	1		
合計		12	103	94

(2010 年 12 月 2 日現在)

IV. 大学・大学院編

大学や大学院での正規の単位取得対象科目として開講される科目、ユニットをこの市場の関連講座として位置づける。2010年度は10拠点で15科目、8ユニットを開講した。2011年度は新規開講機関1拠点を含む10拠点で、新規開講科目6科目を含む17科目、6ユニットを開講する。

大学・大学院	科目名	種別	学科
早稲田大学 理工学術院 先進理工学部	生命医科学ゼミナールⅡ	ユニット	生命医科学科
	生命科学概論 A (建築・電子光・経営・資源・社会工学)	ユニット	建築・電子光・経営・資源・社会工学科
	生命科学概論 A (総合機械 1,2)	ユニット	総合機械学科 1,2
	生命科学概論 A (化学・応用化学)	ユニット	化学・応用化学科
	生命科学概論 B (生命医科)	ユニット	生命医科学科
早稲田大学 理工学術院 大学院先進理工学研究科	先端バイオテクノロジー特論 C	ユニット	生命医科学専攻
早稲田大学 大学院・東京農工大学 大学院 共同先進健康科学専攻	化学物質総合管理学	科目	共同先進健康科学専攻
	食農総合管理学(隔年開講、2011開講せず)	科目	共同先進健康科学専攻
	リスク評価学(隔年開講、2011開講せず)	科目	共同先進健康科学専攻
	感染症総合管理学(隔年開講、新規)	科目	共同先進健康科学専攻
	生活環境総合管理学(隔年開講、新規)	科目	共同先進健康科学専攻
	ハザード評価学(隔年開講、新規)	科目	共同先進健康科学専攻
早稲田大学 大学院・東京女子医科大学 大学院 共同生命医科学専攻	化学物質総合管理学	科目	共同先端生命医科学専攻
	リスク評価学(隔年開講 2011開講せず)	科目	共同先端生命医科学専攻
	感染症総合管理学(隔年開講、新規)	科目	共同先端生命医科学専攻
	ハザード評価学(隔年開講、新規)	科目	共同先端生命医科学専攻
明治大学 大学院理工学研究科 新領域創造専攻	安全学特論	科目	新領域創造専攻
	新領域創造特論 3	科目	新領域創造専攻
お茶の水女子大学	リスク管理 (演習)	科目	生活世界の安全保障科目：リベラルアーツ
	社会技術革新学概論(隔年開講)	科目	生活世界の安全保障科目：リベラルアーツ
	安全管理概論	科目	基礎講義科目
お茶の水女子大学 大学院 人間文化創成科学研究科	化学物質総合管理学 (隔年開講 2011開講せず)	科目	自然応用科学系ライフサイエンス専攻人間環境科学コース
福山大学 大学院 理工学研究科 生命工学専攻	栄養リスクの総合管理学	科目	生命工学専攻
	地域産業のリスク管理学	科目	生命工学専攻
東京工業大学 工学部 高分子工学科	社会技術革新学概論	科目	高分子工学科
東京工業大学 大学院 理工学研究科 化学工学専攻	資源・エネルギー・安全論	科目	化学工学専攻
長崎大学 大学院 医歯薬学総合研究科	原爆と平和学 (新規)	科目	医歯薬学総合研究科

開講年度 開講機関	2009			2010			2011			合計		
	開講数	受講者数	修了者数	開講数	受講者数	修了者数	開講数	受講者数	修了者数	開講数	受講者数	修了者数
早稲田大学 理工学術院 先進理工学部	6ユニット	688	444	6ユニット	720	650	5ユニット			18ユニット	1408	1094
早稲田大学 理工学術院 大学院先進理工学研究 科	2ユニット	21	21	1ユニット			1ユニット			4ユニット	21	21
早稲田大学大学院・東京 農工大学大学院共同先 進健康科学専攻	2010年 度から	—	—	3科目	27	8	4科目			7科目	27	8
早稲田大学大学院・東京 女子医科大学大学院 共 同先端生命医科学専攻	2010年 度から	—	—	2科目	2	1	3科目			5科目	2	1
明治大学大学院理工学 研究科 新領域創造専攻	4科目	41	35	4科目	60	21	2科目			10科目	91	40
お茶の水女子大学	2科目 1ユニット	210	177	1科目 1ユニット	152	128	3科目			6科目 2ユニット	362	305
お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究 科	隔年開 講	—	—	1科目	3	3	(隔年開 講)	—	—	1科目	3	3
福山大学大学院 工学研 究科生命工学専攻	2科目	43	18	2科目			2科目			6科目	43	18
東京工業大学工学部 高 分子工学科	1科目	33	31	1科目	33	29	1科目			3科目	66	60
東京工業大学大学院理 工学研究科 化学工学専 攻	1科目	24	20	1科目	22	18	1科目			3科目	46	38
長崎大学大学院医歯薬 学総合研究科	—	—	—	—	—	—	1科目					
合計		1060	746		1019	858					2069	1588

(2010年12月2日現在)